

(参 考)

長崎県ばらの生産状況

他の切り花との競合や輸入ばらの増加等により、平成7年をピークに国内ばら生産量が減少している中で、本県では、高品質なばらが生産され、県内市場を中心に出荷されています。

産出額は、令和4年産で2億円となっており、切花類では県内できく(29億円)カーネーション(8億円)に次ぐ品目の一つとなっています。

県内の主な産地は、佐世保市、南島原市、西海市、雲仙市で、各産地とも優れた栽培技術により高品質のばらが生産されています。

近年の燃油価格高騰により、施設園芸農家の生産コストが上昇する中、県内のばら産地では電気を動力とするヒートポンプの導入が進んでおり、コスト縮減に努めています。

全国での順位等(令和4年)

(1) 産出額

順位	都道府県	産出額(億円)
1位	愛知県	28
2位	静岡県	15
3位	山形県	13
4位	福岡県	12
5位	群馬県	9
22位	長崎県	2

(2) 栽培面積

順位	都道府県	栽培面積(a)
1位	愛知県	4,530
2位	静岡県	2,860
3位	福岡県	1,590
4位	群馬県	1,340
4位	山形県	1,340
25位	長崎県	367

(3) 出荷本数

順位	都道府県	出荷本数(千本)
1位	愛知県	35,600
2位	静岡県	17,900
3位	福岡県	12,900
4位	山形県	12,800
5位	群馬県	9,500
・位	長崎県	(推計) 2,220

出典：令和4年度農林水産省花き生産出荷統計

出荷本数は全国値と長崎県の産出額構成比より推計

長崎花き園芸農業協同組合の概要

花き専門農協として昭和28年に設立され、長崎花市場を経営。花きの生産振興、販売をはじめ、ながさきフラワーフェスタの開催等、生産から販売、消費拡大PR活動まで幅広い活動を展開している。

長崎花き生産組合バラ部会の概要

- ・ 長崎花き生産組合は長崎花き園芸農業協同組合へ出荷する組合員により構成され、その専門部会であるバラ部会はばらの生産・流通に関する研修会等を定期的に行っています。
- ・ 昭和45年12月に設立され、部会員6名。

父の日の由来

1909年にアメリカ・ワシントン州のJ.B.ドット夫人が、男手1つで自分を育ててくれた父を讃えるために、教会の牧師にお願いし、父の誕生月である6月に礼拝をしてもらったことがきっかけとされています。

また彼女は、当時すでに母の日が始まっていたので、「父の日」もあるべきだと考え、「母の日のように父に感謝する日を」と牧師協会へ嘆願したことによって「父の日」が始まりました。

アメリカ合衆国では、1916年第28代大統領、ウッドロー・ウィルソンの時に、父の日が認知されるようになり、1972年（昭和47年）には国民の祝日にも制定されています。

一方日本では、1950年代ごろから一般にも知られるようになりましたが、「母の花」がカーネーションなのに対してバラが「父の花」となったのは、このドット夫人が「父の日」に父親の墓前にバラの花を供えたことにちなんでいます。

ローズの日の由来

ブルガリアでは、毎年6月に親しい間柄の人にバラを贈り感謝を伝える「バラ祭り」という習慣があり、このような素晴らしい文化を日本にも広げていきたいという願いを込め、一般社団法人ブルガリアンローズ文化協会が制定した記念日です。

ローズの日は6月2日の6と2で「ローズ」と読むことができることから、2017年に記念日として認定されました。

長崎花き園芸農業協同組合 長崎花き生産組合 バラ部会

バラ部会について

○部会の概要

- ・南島原市、雲仙市、西海市、長崎市の6戸の生産者で構成
- ・長崎花き園芸農業協同組合へ出荷

○長崎県産ばらの特徴

- ・厳選した優良品種を適切な管理によって栽培するため、花が大きく、日持ちが良いです！！



活動状況

- 高品質なばらの生産に向けた各種研修会や、県産ばらの消費拡大に向けた取組を実施



「父の日」に伴う長崎県知事へのばらの贈呈（R5.5.27）



現地検討会（西海市）



令和5年度長崎県花き品評会への出品



令和5年度長崎県花き品評会では全293点の出品の中から、竹尾雄二氏（西海市）が農林水産省農産局長賞を受賞しました！